

■浪板地域復興協議会復興計画（案）

第3回目までのまとめ（主な方向性）

【まちづくりの方向】

- ・思わず散歩したくなるような、観光地浪板にふさわしいまちづくり。

【まちの中心・居住地・施設配置】

- ・被災範囲より標高の高い山田線から三陸縦貫道の間、非被災集落と一体化するように住宅地を新設し、安全かつコンパクトな集落を形成する。
- ・浪板交流センターや旧浪板児童館の並ぶ通りをメインストリートとして整備し、既存の公共施設を最大限に活用すると共に、付加価値を創出する。
- ・砂浜を再生し、サーフィンのメッカ、美しい海を望める観光地としての浪板を復活させる。また、被災エリアには、緑地・公園・キャンプ場などを整備し、レクリエーション空間として最大限に有効活用する。
- ・既存集落から海側に張り出すように、眺めの良い場所を盛土し、民宿や旅館、ショップ等が並ぶ商業用地を創出する。
- ・浪板交流センター付近や既存の仮設住宅地に公営住宅を整備する。

【防潮堤】

- ・高台移転を基本とするため、防潮堤は現況の高さとする。

【津波防御施設】

- ・旧道をJR線と同じレベルまで嵩上げし、上部を地区内道路として活用すると共に一体的な幅広の堤防として整備する。
- ・緑地・公園内に一時避難可能な施設を整備し、観光客でもわかりやすい避難誘導標識を設置する。

【避難】

- ・浪板交流センターと緑地・公園エリアを結ぶ、避難道及び町の骨格となる道路を新設する。
- ・車での避難を考慮した、既存道路（田屋線等）と新設避難路の十分な幅員を確保する。
- ・吉里吉里へ繋がる林道や既存の町道等については、まちの中心地との連携を考慮した整備を行う。
- ・三陸縦貫道により分断される表参道の機能回復として、大型車の通行も可能な道路を整備する。
- ・三陸縦貫道に緊急時の出入りが可能な坂路を整備する。